

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第181回定期演奏会

The 181st Regular Concert

合唱と邦楽器たちとの 出会い

Joint Concert of Chorus with Japanese Traditional Instruments

NHK東京児童合唱団を迎えて



2005年 11月18日[金]

午後7時開演(午後6時20分開場)

第一生命ホール

：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール

：助成：平成17年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
(財)Asahiアサヒビール芸術文化財団・(財)三菱信託芸術文化財団

■ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail office@promusica.or.jp

■ トリトン・アーツ・ネットワーク： <http://www.triton-arts.net>



出会える喜び

栗山文昭



この音にあふれ過ぎた日本の中から、私たちに一番大切な音を探す旅。私はそれが自身の音楽活動だと考えています。多分、この旅には終点はないでしょう。しかし、なにかとの出会で、そう、それぞれ、その音が欲しかったんだよ、と、ほほえみを交せる音、その音たちに今日は出会えるはずです。

日本音楽集団の皆様の今回の企画により、邦楽器と子供たちの声との出会の時を作ってくださいました。感謝の気持ちでいっぱいです。指揮者の田村先生のお計いで、子供たちの練習の場に、何人かの集団の方をお呼びいただき、合せが始まった途端、彼らが体の中から変っていくのがわかるのです。その瞬間、彼らは新しい自分とも出会っているのです。取り立てのレモンからほとぼり出たような音、と私は感じました。

それぞれの作曲家の切り口が、また今回の演奏会の楽しみでもあります。そして、それらは、私たち日本人の血の中に実はあったもの。自分自身との出会の時ともなるでしょう。

(NHK東京児童合唱団音楽監督)

嬉しい! 合唱との作品3曲誕生

田村拓男

今日(10月19日)、NHKのスタジオで初めて児童合唱団と練習をしました。琵琶や三味線、大きな箏(二十絃箏や十七絃)、長さの違う笛や尺八がたくさんあって合唱団の皆さんは目を丸くしていました。「ほ、ほ、ほーたるこい…」(信長作品)、「Hum? Hum——ワッ!(^)(^)(^)(^)(^)(^)」(新実作品)。天からの声が響き、新実さんの楽譜には遂に顔文字まで登場しました。新しい出会いと発見!…。素晴らしい合唱との作品が3曲も誕生しました。この出会いはNHK東京児童合唱団の定期演奏会(2006年1月14日、15日、東京オペラ・シティ、タケミツ・メモリアル)と、今年新装オープンした島根県芸術文化センターグラントワ(益田市)での公演(2006年3月21日)まで続きます。

素敵なお出合いを作ってくれた栗山さんは、今回は芸大の定期演奏会と日程が重なり出演できないのが大変残念ですが、益田市(栗山さんと同故郷)の公演では同じステージに立ちます。

(日本音楽集団代表)

一、**梁塵今様**(りょうじんいまよう)～児童合唱と邦楽合奏のための(2005年)委嘱初演／川崎絵都夫作曲

"Ryōjin Imayō" for children's chorus and Japanese traditional instruments, comp. by KAWASAKI, Etsuo

- 1.春の初めの
- 2.鈴はさや振る
- 3.月かげゆかしくは
- 4.山伏の腰につけたる
- 5.遊びをせんとや生まれけむ

[合唱] NHK東京児童合唱団〈ザ・ユース・クラス〉(客演)

[笛] 竹井誠 [尺八] I 藤崎重康 II 阪口夕山 III 原郷隆

[三味線] 工藤哲子 [琵琶] 細川華鶴子

[二十絃箏] I 三宅礼子・佐藤里美 II 高橋はるな・久本桂子 [十七絃] 渡辺正子・彦坂恵美

[打楽器] 尾崎太一・盧慶順・島村聖香

[指揮] 田村拓男

二、**秋の一日**(1985年)／長沢勝俊作曲

One Day in Autumn, comp. by NAGASAWA, Katsutoshi

- 1.序曲
- 2.どんぐりこままわそう
- 3.いわし雲みつけた
- 4.祭囃子がよんでいる
- 5.終曲

[ナレーション] 村上茉優、大久保亮紀、石川葉保子、岡本廉、山岸奏実、清水えり、梶井圭、
榊原えり子、井上雅基(以上、NHK東京児童合唱団)

[笛] 西川浩平 [尺八] 米澤浩 [三味線] 杵家七三 [琵琶] 首藤久美子

[二十絃箏] 早川智子 [十七絃] 久東寿子 [打楽器] 望月太喜之丞

三、**ひかりのうたげ**～童声合唱と邦楽器のための(2005年)委嘱初演／信長貴富作曲

"The Feast of Glowing" for children's chorus and Japanese traditional instruments, comp. by NOBUNAGA, Takatomi

[合唱] NHK東京児童合唱団〈ザ・ジュニア・クラス〉(客演)

[笛] 西川浩平 [尺八] I 藤崎重康 II 渡辺淳

[三味線] I 山崎千鶴子 II 箕田弘大 [琵琶] 首藤久美子

[箏] I 熊沢栄利子 II 田村法子 III 衣袋聖志 [十七絃] 久本桂子

[打楽器] 盧慶順・島村聖香

[指揮] 田村拓男 [副指揮] 金田典子(NHK東京児童合唱団)

……休憩……

四、**「四季」ダンス・コンサートI**(1973年)／三木稔作曲

"Four seasons" Dances Concertantes I, comp. by MIKI, Minoru

〈踊る春〉〈水巡る(みずめぐる)〉〈秋、そして〉〈風の花〉〈エピローグ〉

[笛] 竹井誠 [尺八] I 藤崎重康・阪口夕山 II 米澤浩・元永拓

[三味線] 穂積大志 [琵琶] 細川華鶴子

[箏] I 早川智子・渡辺正子 II 田村法子・彦坂恵美 [十七絃] 久東寿子・佐藤里美

[打楽器] 尾崎太一・望月太喜之丞

[指揮] 田村拓男

五、**舞歌II**(まいうた)～児童合唱と邦楽アンサンブルのために(2005年)委嘱初演／新実徳英作曲

"Maiuta II" for children's chorus and ensemble of Japanese traditional instruments, comp. by NIIMI, Tokuhide

[合唱] NHK東京児童合唱団〈ザ・ユース・クラス〉(客演)

[笛] I 西川浩平 II 竹井誠 III 原郷隆

[尺八] I 米澤浩 II 阪口夕山 III 渡辺淳

[二十絃箏] I-1 熊沢栄利子 I-2 三宅礼子 II-1 田村法子 II-2 衣袋聖志

[十七絃] I 久本桂子 II 渡辺正子

[打楽器] 望月太喜之丞・盧慶順・島村聖香

[指揮] 田村拓男

●ロビーコンサート●(第一生命ホール4階ロビーにて、6時35分より)

「五声のコンチェルティーノ」(2002年)／福嶋頼秀作曲

[尺八] 渡辺淳 [三味線] 箕田弘大 [琵琶] 細川華鶴子 [二十絃箏] 衣袋聖志 [打楽器] 島村聖香

梁塵今様～児童合唱と邦楽合奏のための

「梁塵今様(りょうじんいまよう)」は、12世紀に自身も歌の名手であったとされる後白河上皇によって編纂された「梁塵秘抄(りょうじんひししょう)」から5編の歌詞を選び、自由な発想で作った合唱曲です。

「梁塵秘抄」の「秘抄」とは、大切な秘伝を書いた本、という意味です。また「梁塵」の「梁」は建物の梁(はり)のこと。「塵」は、ほこりなどのちりのことです。中国の古代に虞公と韓娥という非常に美しい声の持ち主が居て、二人が歌うと、梁の上にたまった細かな塵が舞い立ち三日間も静まらないほどであった、という故事による言葉です。

また、梁塵秘抄も含め11世紀後半から200年ほど広く愛唱されていた歌謡(うた)を「今様(いまよう)」と呼びます。あくまでも民衆的な歌なのですが、生き生きとした「はやしことば」や「ものはづくし」、軽快で自由な八五調や不定型の句体はとても魅力的です。皆様楽しんで頂けると幸いです。(川崎絵都夫)

秋の一日

日本の四季は、自然現象としては昔も今も変わらずにその営みを続けています。この曲は、失われていくものへのノスタルジアや挽歌ではなく、失ってはならないものを、大人も子供も一緒になってもう一度みつけないおし、よびもどそうというねがいをもって作られた作品です。

長沢勝俊作曲の四季シリーズの2作目で、1985年、日本音楽集団第90回定期演奏会で初演されました。

収録CD：ナミレコード日本音楽集団35周年記念CD「DIVERTIMENTO」

ひかりのうたげ～童声合唱と邦楽器のための

『ひかりのうたげ』の「ひかり」は蛍を指している。闇に幾粒かの光が産み落とされる場所からこの曲は始まる。

日本には古くから、蛍に死者の霊が宿っているという考え方がある。『日本の遊び歌』(川崎洋著/新潮社)の中に、第二次世界大戦中の鹿児島県知覧特攻基地での逸話が紹介されている。二十歳前後の特攻隊員が、自分は蛍になって還ってくるから迎えてください、と言って海に散っていったそうだ。今では「ほーたる来い」と蛍を迎え入れる声は日常から消えてしまったが、蛍になって還ってきた特攻隊員たちのことも、いずれ人々の記憶から消えてしまうのだろうか。蛍の棲む美しい水辺も、戦争の哀しい記憶も消え、やがて歌も滅び行くのではないか……そのような虞(おそれ)を今、抱かずにいられない。

戦後60年。戦争で亡くなった沢山の人々の魂も、今を生きている私たちも、再び歌のもとに集えないだろうか、そんな願いから『ひかりのうたげ』を作曲した。素材として広島と長崎のわらべうたを引用している。童声でそれらが歌われるとき、死者も生者も渾然一体となった祭りの陶酔に似た幻想に誘われるだろう。(信長貴富)

「四季」ダンス・コンセルタントI

四季を表現する各章は文字通り〈踊る春〉、抒情的な〈水巡る〉、〈秋、そして〉穫入れの踊りを経て、クールな〈風の花〉が〈エピローグ〉でしめくられる構成になっています。〈エピローグ〉の中には打楽器のカデンツァが挿入されることもあります。作曲者が、かつて作曲を担当した舞踊シーンから、楽しく易しい旋律を選び作曲された作品。

1973年、日本音楽集団第21回定期演奏会で初演されました。

収録CD：ナミレコード日本音楽集団35周年記念CD「DIVERTIMENTO」カメラータ・トウキョウ「(四季)ダンス・コンセルタントI/三木稔選集I」

舞歌 II

〈舞歌 I〉もそうですが、この曲でも子どもたちによる架空の舞踊(児童合唱によくあるような振りではなく)を想定しています。いつの時代までだったのでしょうか、歌(音楽)と踊りは一つのものだったはずで、僕はそうした歌=踊りの「復権」を夢想しているのです。

さて、この曲では日本の楽器を背景に日本の子どものたちのエネルギーが噴出します。テキストは詩ではなく、わらべ唄や各地方に伝えられる「こーじんさま、さんたいさま、じくがみさま…」などの土地の神々の名。そして不可思議なヴォーカリーズetc。

時空を超えて翔び交う子どもたちの声、邦楽器の調べを「今」という時に結ぶ試みでもあります。

「過去」の素材、それらが「今」に結ぶ、そしてそれがどのような「未来」につながっていくのか、とても楽しみなことです。(新実徳英)

【梁塵今様 歌詞】

1 春の初めの

春の初めの歌枕 霞たなびく吉野山 鶯佐保姫翁草 花を見捨てて帰る雁
 [春の初めにふさわしい歌枕には一霞がたなびく吉野山、鶯、佐保姫、翁草、桜の盛りを見捨てて北の国へ帰ってゆく雁よ。]

2 鈴はさや振る

鈴はさや振る藤太巫女 目より上にぞ鈴は振る ゆらゆらと振り上げて
 目より下にて鈴振れば 懈怠なりとて 神腹立ちたまふ
 [鈴はそうのように振ってよいものか、藤太巫女よ。目より上でこそ鈴は振るもの、ゆらゆらと振り上げてね。目より下で鈴を振るようなことをすれば、「怠けているぞ」と、神がお腹立ちになられるよ。]

3 月かげゆかしくは

月かげゆかしくは 南面に池を掘れ さてぞ見る 琴の琴の音聞きたくは
 北の岡の上に松を植ゑよ
 [月を見たいと思うならば、屋敷の南正面に池を掘るがよい。 そうして池面に映る月を眺めるのさ。 琴の奏でる音を聞きたいと思うならば、北の丘の上に松の木を植えれば十分だ。]

4 山伏の腰につけたる

山伏の腰につけたる法螺貝の ちやうと落ちていと割れ 砕けてものを思ふころかな
 [山伏が腰につけたその法螺貝が、ちやうと落ち、ていと割れて砕ける。そのように私の心も干々に砕け乱れて、物思いに耽ける今日このごろだよ。]

5 遊びをせんとや生まれけむ

遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけん 遊ぶ子どもの声聞けば
 わが身さへこそ揺るがるれ
 [遊びをしようとしてこの世に生まれてきたのであろうか、それとも戯れをしようとして生まれてきたのであろうか、無心に遊んでいる子どもたちの声を聞いていると、自分の体までが自然と動きだすように思われる。]

【ひかりのうたげ 歌詞】

ほたる たるたる たんぐるまの水は
 のめば さんがれさんがれ
 のまねば あがれ
 ほたる来い ほたる来い
 あっちの水は ながいぞながいぞ
 こっちの水は あまいぞあまいぞ
 (長崎のわらべうた)

ほたるさんたちや ええあんばい
 頭へ頭巾 かずいて
 黄色いちようちん とぼいて
 あっちの水は ながいよ
 こっちの水は あまいよ
 ほ ほ ほたる来い
 (広島島のわらべうた)

【舞歌IIに使われている〈ことば〉など】

Hum —, uh —, ih —
 いとさくら しゅすのおびさアのやア いとさくら・・・
 Hum → Hum? → Hum? → Hum → ワッ
 Hum → オ(^^) → ワッ オ(∨) → ツ ア(^^)
 こーじんさま さんたいさま じくがみさま ホーレヤソーレヤ
 きだまさま じじしんさん としとくさん こかげさま
 そーとくさま かさかみさん おきぬさま
 おすべりめし まいまいさま
 ホイ ソイ ホイ ソイソイ ヨハッハッ イヤー

etc.

委嘱作曲家プロフィール



川崎絵都夫(かわさき えつお)

作曲家。1959年東京生まれ。魚座。A型。東京芸術大学作曲科卒業後、オーケストラレーターとして活躍。並行して邦楽器、合唱、室内楽などの委嘱作品発表を続けている。また文学座・新国立劇場を始めとした舞台音楽も多数。邦楽合奏作品は親しみ易い作風で広く演奏されている。日本作曲家協議会会員。東京ミュージック&メディアアーツ、尚美特別講師。2000年～2004年・早稲田大学文学部講師。



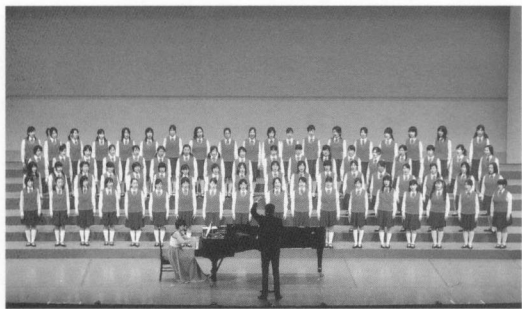
信長貴富(のぶなが たかとみ)

1971年生まれ。1994年上智大学文学部教育学科卒業。
 主な受賞歴:1994・95・99年朝日作曲賞、1998年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位、2000年現音作曲新人賞入選、2001年日本音楽コンクール作曲部門(室内楽曲)第2位など。
 近作に「モニュメント」(女声)、「いまぼくに」(混声+Pf)、「カウボーイ・ポップ」(混声・男声)、「起点」(男声+Pf+打楽器)、「Wind Vane」(Fl+Vc+Pf)、「狐憑き」(三味線+Vc)などがある。



新実徳英(にいみ とくひで)

1947年名古屋生まれ。東京大学工学部卒、東京芸術大学大学院研究科修了。77年第8回ジュネーヴ国際バレエ音楽作曲コンクールグランプリ、2000年第18回中島健蔵音楽賞、03年別宮賞、04年CD「風神・雷神」が芸術祭大賞など受賞。作品は管弦楽、ピアノ、合唱、室内楽等多数。国内でNHK交響楽団など、海外ではスイス・ロマン、ベルリン交響楽団他の多くのオーケストラで管弦楽作品が演奏され、高い評価を得ている。現在東京音楽大学客員教授、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師、日本作曲家協議会理事。



NHK東京児童合唱団

1952年3月「少年少女に豊かな心を」という願いから、NHKの教育番組と子ども番組の充実を目的として設立された。以来、番組出演はもとより、海外の合唱団との交流、国内主要オーケストラとの共演など、活動の幅を広げている。また、毎年意欲的なプログラムによる定期演奏会を開催し、邦人作曲家への合唱曲の委嘱にも力を注ぎ、多くの作品を内外に紹介している。1977年から行っている海外演奏旅行も14回を数える。これまでに、BBC世界アマチュア合唱コンクール第2位、コダーイ・ゾルタン生誕100年記念国際合唱コンクール青少年部門第1位・総合部門クランプリ、EBU主催世界合唱コンクール児童合唱部門第1位など、多数のコンクールで入賞した。国内においても、2000年に花とライオン児童合唱音楽賞、2003年に童謡文化賞などを受賞し、児童文化の向上に貢献している。
 音楽監督:栗山文昭 団員:小学2年生から高校2年生まで274名。

NHK東京児童合唱団 出演者

<ザ・ユース・クラス>

(中学3年生～高校2年生)

<ザ・ジュニア・クラス>

(小学2年生～小学4年生)

青木 優里	渡辺 友実子	佐々木 智美	I コーラス	友野 由紀子	小槇 脩平	鹿野 水月	山本 宇
大関 千尋	赤野 真美	清水 麻帆	伊藤 喜美子	文田 千瑛美	佐藤 かの子	茂木 倫紗	伊藤 響
尾高 由里子	池上 裕美子	杉田 葉月	井上 雅基	吉岡 歩美	名塚 彩英	柳 彩芽	角田 紬
金田 舞子	加藤 茉衣	永坂 ひとみ	大久保 亮紀	川橋 優	前川 治己	吉家 花音	田幡 響子
杉浦 麻子	佐藤 美由紀	平田 美穂子	岡本 廉	関澤 佳奈子	折川 航暉	藤下 沙紀	道場 早菜子
鈴木 晴奈	中山 咲緒里	王 恵理佳	小林 由佳	門馬 和佳子	田中 陽菜	内藤 友美	西川 真由
橋爪 なな	町田 萌	菊池 優花	佐藤 満帆	森本 奈津子	後藤 真菜美	吉浦 ちえり	土山 絢子
牧島 奈緒	渡辺 育子	砂川 真緒	清水 えり	柳澤 榛乃	千野 桃子	板谷 麻由	山中 七海
山田 有里奈	神戸 裕衣		吉田 真帆	加藤 みなみ		梶井 圭	渡邊 愛佐
栗田 麻里	国吉 真麻		浅野 英里	柳沢 茜	II コーラス	北林 美紅	歌 星香
歌丸 郁香	酒井 亜紀		加藤 舞	通山 潔子	市川 睦姫	城下 理沙	佐藤 珠実
川島 裕子	田島 葉月		麻生 真由	高田 麻衣	江川 成美	垂脇 かおり	近藤 紫織
栗田 彩音	田辺 暎子		城戸 光代	馬場 友望	加藤 千晶	山岸 奏実	相澤 萌子
佐藤 礼菜	松原 彩里		尾畑 みどり	山岡 敦美	杉田 千紘	磯野 真那	城戸 孝二
仲本 京	青木 咲子		樋口 小春	鹿嶋 茜	村上 茉優	須田 愛美	島 彩乃
東 奈々	荻原 愛佳		石川 菜保子	稲岡 奈緒子	藤原 未彩	寺井 かなな	
三宅 ひとみ	川合 翔子		榊原 えり子	大矢 美香	檜島 麻莉子	古谷 亜実	

2005年

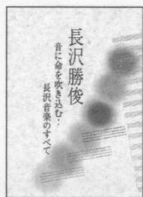
- 7月 6日(水)、7日(木) 平成17年度浜田市スクール・コンサート 長浜小学校・浜田東中学校
7月 6日(水)～8日(金) 平成17年度北九州市中学生音楽鑑賞教室 ウェルとばた
7月31日(日) 特別養護老人ホームけやきホールコンサート
8月28日(日)～9月17日(土) 渋谷区伝統和楽器こども教室「三味線にチャレンジ」(全5回)
渋谷区立上原小学校
9月 4日(日) 邦楽の魅力～日本音楽集団(「巨火」他) 小山市立文化センター
9月11日(日) 東京都福利厚生事業団公益事業第29回都民コンサート「箏による日本と西洋の調べ」
東京国際フォーラムD7
9月16日(金) 富山県砺波高等学校音楽鑑賞会 砺波市文化会館
9月19日(月) 平成17年度上越市敬老会(浦川原区)
9月23日(金) 日本音楽集団和楽器の調べ 黒部市国際文化センターコラーレ
9月27日(火) 第180回定期演奏会
～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズ VII湯浅譲二氏からのメッセージ 津田ホール
9月30日(金) 大垣市内小学校音楽鑑賞会 スイピアセンター文化ホール
10月10日(月) 東京都福利厚生事業団公益事業第30回都民コンサート「邦楽器で楽しむ日本の秋」
東京国際フォーラムD7
10月12日(水) 佐倉市内中学校音楽鑑賞会 佐倉市民音楽ホール
10月15日(土) NHK邦楽技能者育成会50周年記念「日本音楽の祭典」(NHK教育テレビで11月3日に放映)
NHKホール
11月18日(金) 第181回定期演奏会
～合唱と邦楽器たちとの出会い NHK東京児童合唱団を迎えて 第一生命ホール
11月25日(金) 駒沢学園女子中学校・高等学校音楽鑑賞会

2006年度

- 1月14(土)、15(日) NHK東京児童合唱団第34回定期演奏会～夢・つくる・未来
東京オペラシティコンサートホール タケミツメモリアル
1月27日(金) 第182回定期演奏会～新しい音を探るvol.3 津田ホール
3月 8日(水) 防衛大学校音楽鑑賞会
3月21日(火) 島根県益田公演(グラントワ開館記念コンサート、NHK東京児童合唱団と共演)
島根県芸術文化センター・グラントワ
3月26日(日) 育児支援コンサート～子どもを連れてクラシック・コンサート 第一生命ホール
5月18日(木) 第183回定期演奏会～コンチェルトの夕べ 第一生命ホール

長沢勝俊

音に命を吹き込む・・・
長沢音楽のすべて



日本音楽集団の西川浩平、水川寿也、宮越圭子の対話者が、“長沢ブシ”の魅力を訪ね、長沢勝俊の音楽人生について語る。
長沢と共に歩んだ方々の貴重なメッセージを収録。
また、作品年表も掲載。 A5判 定価700円

日本音楽集団定期演奏会《モニター・ボランティア》募集

日本音楽集団では定期演奏会にご来場頂き、お客様の視点からの印象や感想などをレポートしていただく《モニター・ボランティア》を募集いたしております。ご意見は音楽集団の定期演奏会の運営に役立たせて頂く他、「モニター・レポート」として音楽集団のHP上で公開することもあります。

- 応募方法／本団事務局宛に、応募用紙と共に作文を送付していただきます。
- 第3期締め切り／平成17年12月22日(木) 必着
ご希望の方は演奏会場で、又は日本音楽集団事務局へお問い合わせ頂き、詳細な応募要項をお求め下さい。

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。募集の詳細はチラシをご参照ください。

【賛助会員】五十音順

法人

(株)全音楽譜出版社
(株)宮本卯之助商店
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク

個人

青柳 堯
新井 克輔
飯塚 絹子
飯吉 正山
伊藤 美恵子
今村 厚子
江西 緑

大関 富枝
太田 颯衣
川壁 正則
岸後 彰子
藤陽 子
四反田 素幸
杉田 和繁

関土 厚雄
藤井 山見
中島 雅弘
浜田 靖子
古川 羽衣
本 田 川 山 実

水野 正徳
渡辺 邦子
渡辺 治子
Andrew MacGregor

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣
〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル
PHONE.03-3397-2292
FAX. 03-3397-7728

箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、
楽器の本質を追究した箏

十七絃箏

二十絃箏

二十五絃箏

Tokyo



時を超え心に残る音づくり

有限会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL03(3792)8481 FAX03(3792)8437
E-mail: tokyo@kinko-do.com